

## 座談会

学長・学園長×学生×生徒

# 夢に向かって 挑戦する心を

原田あかりさん  
農学部先端食農学科  
2年

高嶋志帆さん  
観光学部観光学科  
4年

中山敬太さん  
12年伊吹組

2019年、玉川学園は創立90周年を迎えました。伝統を礎に新たな1年が始まるこの丘で、小原芳明学長・学園長と大学生、K-12の生徒が語り合いました。夢の実現に向けた学生、生徒の挑戦と、全人教育の接点を学長・学園長が説き明かした座談会。チームとしての調和、グローバル化や異文化理解などをキーワードに、話題は多方面におよびました。

小原芳明 学長・学園長

**学長** 今日は大学生と12年生という顔ぶれでの座談会。まずはみんなががんばっていることを教えてくれるかな。  
**中山** 僕は幼稚部から玉川で、今年14年目です。

**原田・高嶋** 私たちよりだいぶ長いんですね。

**中山** サイエンスクラブで、自動運転に必要な交通信号機の機能開発をテーマに研究しています。10年生からは自由研究「SSHリサーチ」を選択したので研究時間が増え、学校に来るのが毎日楽しいです。

**学長** World Robot Summit 2018で優勝したときも話を聞かせてくれたのを覚えているよ。研究テーマはまさに今後の社会に欠かせないものだね。  
**原田** 私はまだ玉川2年目で(笑)。食べ物への興味から進学先を検討していたとき、先端食農学科のパンフレットを見て「カッコいい、これだ!」と思ったんです。

**学長** 実験室で白衣を着てというイメージだ。  
**原田** はい、畑で農作物をつくることもそうですが、実験室の研究に憧れたのも大きかったです。

**学長** 人口増加に対応する食料生産が求められている。これも大事な分野だ。  
**高嶋** 私が玉川を選んだのは、1年間

のオーストラリア留学を含めた学部のカリキュラムが魅力的だったからです。帰国後はゼミで統計的手法を使いながら、SNSが観光での行き先決定などに与える影響を調べています。

**学長** 長い間の留学、苦勞もあったんじゃないかな?

**高嶋** 最初はホームステイ先のホストファミリーと意思疎通ができなくて辛かったです。でも会話の量を増やすしかないと思って、授業が終わったらすぐ帰宅してとにかく話すようにしたら、2カ月くらいで自然に会話ができるようになったんです。

**原田** 適応力、見習いたいです。私はちょうど1年前、実家を離れてひとり暮らしを始めたときには玉川になじめるか不安ばかりが募っていました。

**学長** いまはすっかり慣れただろう?  
**原田** 担任の先生を中心にクラスで学んだり交流したりする機会が多くて、すぐになじめました。担任制は私にとって大きな安心材料でしたね。

**高嶋** 私も入学してから思いました。

玉川は先生と学生の距離が近いなって。  
**学長** 大学は親に代わり学生の学びを把握し、助言する役割を持つ。いまは多様な学生が学ぶ時代だ。先輩や友人のいろいろな考え方や意見に接する中で、迷うこともあるよね。そんな学生

の様子を俯瞰して導く意味で、玉川の伝統である担任制の意義はさらに増していると思う。

**中山** 先生との距離の近さはK-12も同じです。やりたいことには日頃から手厚い支援があります。自由研究の論文執筆では、良いものになるように何度も親身にアドバイスをしてくださって。とても心強いです。

**高嶋** TAP (Tamagawa Adventure Program) も私が感じる玉川らしい教育ですね。

**原田** この前、体育会の主将や運営担当が参加する「リーダーズトレーニング」で初めて体験しました!

**中山** K-12でも学年に合わせて取り組んでいます。

**高嶋** いいですよ、TAP。私の場合、ゼミの先生がTAP好きで率先してやろうと。3年生と4年生合同でお互いの距離が縮まったし、共通の目標に挑戦することでチームワークも学べた。昨年は学内で1泊したんですが、今年は2泊にと提案があったりと大満足の結果になりました。

**中山** 僕は国際交流をテーマに活動するラウンドスクエア実行委員会という活動に参加しています。そのコアメンバーでもTAPにチャレンジします。何より学べるのは意見を出し合うこと

特集  
90周年  
学園創立





小原芳明 Yoshiaki Obara

玉川大学学長・玉川学園学長。1946年東京都生まれ。スタンフォード大学大学院教育学研究科教育政策分析専攻修士課程を修了。日本私立大学協会常務理事、全国私立大学教職課程協会会長を務める。著書に『教育の挑戦』（玉川大学出版部）など

の大切さ。それにメンバー同士の絆も強くなりました。

**学長** TAPは冒険する気持ちを養うという従来なかった教育ができるという考えで導入した。その理念的な背景に教育者クルト・ハーンが提唱したアドベンチャー教育がある。

**中山** クルト・ハーンはラウンドスクエアにも関係していますね。

**学長** そう。この世界規模の私立学校連盟に玉川は日本で初めて加盟している。クルト・ハーンはラウンドスクエアの設立の礎であり、「全人教育」を掲げた玉川の創立者、小原國芳と同時代の人でもある。2人の考えは共通点が多くて、もし出会っていたら意気投合していたはずだと言う人もいるくらいなんだ。

**原田** TAPは本当に新鮮な経験でした。自分から積極的に意見を言わないといけないけれど、ふだんは聞き役に回りがちな私にはたいへんでしたが……。

**学長** 自分から思いを仲間へ伝えたり、協力を買って出ないと何も達成できないようになっていくからね。

**高嶋** 「発信」っていういろんな意味で大切ですよ。留学先で語学学校修了後、現地の大学の正課授業を受けるためのテストに失敗したとき、それを痛烈に感じました。

**学長** 失敗して諦めた？

**高嶋** いえ、直前のテストは問題なかったのですが、先生に必死でアピールしました。もう一度テストを受ければ結果を出せそうです。却下されても何度も通いました。せっかくの学びの機会をぜったいに諦めたくなかったんです。

**中山** 食らいつく姿勢ですね。結果は変わりましたか？

**高嶋** 友人も連れて行って証言してもらい、最後は先生が根負けしたのか、再テストを受けられることになったんです。

**学長** 必死さが相手にも伝わったからこそ、応えてくれたんだろうね。

**高嶋** でも合格して受けた正課の授業は内容が高度で。質問されてもその意味がわからないうらいでしたが、個人授業みたいに先生へ質問し続けて学びました。

**原田** 私は英語でどこまでやれるか試したくて1年生の夏休みにアメリカのワシントン大学へ。

**学長** 1年生からとは積極的だ。SAE (Study Abroad Experience) の海外留学・研修プログラムだな。

**原田** はい。留学先には日本人もいなかったんですが、英語を使わなきゃと思って避けていたんです(笑)。おかげでアメリカと台湾に友だちができました。あと、語学以外では食で気になることがあり

必死だった留学の1年間。

自分の意見を伝えることの

大切さを学んだ(高嶋)



ました。

**高嶋** さすが農学部。どんなことが？

**原田** アメリカは農産物の生産量が多いし、食品関係で世界的な企業もある。そんな国なのにファストフードが目立っていて食が全体に大雑把。ただ空腹を満たすような。反対に日本はご飯とお味噌汁のほかにも何かあって少しづつ味わう繊細さがある。違いとその理由に興味がありました。

**学長** 海外に行くと日本の当たり前が通用しなくて、自分と相反するものにも遭遇する。一方で共通点も見つかる。語学にとどまらず、留学の意義はこういう発見にもある。

**高嶋** 私たちに身近な和食って海外での評価は高いんですよ。

**学長** 食も日本の「光」であり、売り

になるものだ。でも残念ながら日本人は何ごとにも主張を控えがち。日本人同士なら察してくれるけれど、グローバルに異文化の人たちと関わる機会は増えている。君たちも相手によってコミュニケーションの方法を変えられるようにならないとね。

**中山** 11年生でカナダ・オタワでのラウンドスクエア国際会議に参加して、多様性を尊重することを学びました。僕は意見を言うことと同時に、多くの人の考えを吸収したいです。そして自分がリーダーになるときは、周囲を助け、意見や協力を引き出せるようにしたいんです。

**高嶋** 周りにしっかり配慮するリーダー。高校生なのにすごいな。

**中山** ロボット開発はまわりのみんなの協力が得られないとできないんです。それに独りよがりな科学技術は世の中に貢献できないんじゃないかと思っています。

**原田** 社会で求められていることを理解しないとということですね。

**学長** とくに高等教育の段階になると、学ぶことの答えはひとつではないこともある。人間の考え方や観点はそれぞれ

第九は玉川らしい学び。

歌いきったときの達成感

格別だった(原田)



れちがう以上、みんなが同じ意見になること自体が矛盾だ。それを自覚して「自分はこの観点でこう考える」と明確に打ち出さないと。

**原田** 先生が仰ったこととTAPで学んだことは似ている気がします。玉川での経験って広がりが大きいんです。

**学長** だから玉川ならではの学びにとんどん挑戦してほしいよ。

**中山** 僕は音楽祭にも玉川の良さを感じています。

**原田** 私もです。音楽祭の大舞台上で「第九」を歌いきったときの達成感、清々しさが格別でした。

**学長** ドイツ語だけでもたいへんなのに、第九は低音から高音までとてつも

# 90周年 学園創立



World Robot Summit 2018に「Tamagawa Academy Science Club」として出場し、海外チームとも交流。ジュニア競技ホームロボットチャレンジ部門優勝、ジュニア特別賞受賞を果たす



中山敬太 Keita Nakayama

12年伊吹組。幼稚部年中から玉川で学ぶ。スキー学校実行委員会委員長(7年)を皮切りにラウンドスクエア実行委員会など、積極的に生徒主体の活動に参加している。好きな科目は数学、物理、化学。サイエンスクラブに所属。海外研修や模擬国連の学びから海外にも目を向けるようになった



原田あかり Akari Harada

農学部先端食農学科2年。農場で行う栽培と実験室で行う研究の両方に魅力を感じて学科を選択。1年次には「脳科学」などの授業も履修して興味の幅を広げた。レポートで自分の考察を書くまで求められる大学の学びに充実感を覚えている。課外活動では体育会エアロビックチームに所属



1年次の夏休みにSAE海外研修プログラムでワシントン大学へ。高校時代からの夢をかなえ、3週間、英語を学んだ。ぎこちない会話でもとにかく言葉を変わして関係をつくった



ゼミ恒例のTAPで、与えられた設計図通りに14枚の板でパズルを組む「サイクルタイム」に挑戦。協働で目標を達成するアクティビティを通して学年を超えた交流を深めた



高嶋志帆 Shiho Takashima

観光学部観光学科4年。オーストラリア留学ではスウィンバーン工科大学で学び、正課の授業でマーケティングコースを選択。3年秋学期から小林直樹准教授のゼミで、留学時代につくった現地の友人にもアンケート調査をした上で、「SNSが旅行に及ぼす影響」を分析。現在は就職活動に邁進中

ない要求をされる曲だ。

**中山** 12年生は例年モーツァルトの「レクイエム」に挑戦します。むずかしい曲ですが、いまから楽しみます。

**学長** 「第九」は象徴的だけれども、創立者は不可能と思えるようなことに挑戦する心を大事にしたかったんだと思う。挑戦した結果の失敗や成功は人生に必要なもの。玉川における「第九」「レクイエム」への挑戦にはそんな意味があると考えてほしい。

**中山** 研究では挫折をしばしば味わっています。新しいプログラムを書いてはロボットを動かしてみようのですが、たいいてい思い通りには進みません。そこを仲間と協力しながら乗り越えていくんです。

**原田** とても一体感があるんですね。

**中山** 大会には5人で出場するんですが、目標を共有しているの不思議なくらいまとまるんですよ。

**学長** 幼稚部からの仲間もいるんだらうから、その点はアドバンテージだ。チームづくりは時間がかかるんだよ。

**高嶋** やっぱりチームですね。私はELF (English as a Lingua Franca) の授業が好き

なんです。身についたのは聞く、話す、読む、書くという英語の4技能だけじゃない気がします。グループワークで映像作品をつくる課題があったりしたので。あと、観光学部は留学やTOEICスコアのように具体的な目標に向けて、同じ志を持つ者同士で団結する雰囲気があって、チームのような連帯感がありますね。

\*

**学長** いま、農学部、工学部、芸術学部がともに使用するSTREAM Hall 2019を建設している。

**原田** あっ、英語の授業があるELF Study Hall 2015の隣ですよ。

**学長** うん。学問の文理融合は世界的な潮流。学問は異なる専門分野の間で情報をシェアして、イノベーションを起こして社会に貢献するべきなんだ。

Arts, Mathematics) 教育の形だよ。食べものだって、栄養や機能が足りていれば十分なわけでもない。見た目に満足できるものがあつたほうがいいね。

\*

**学長** さあ、最後にみんなの夢を聞きかせてもらおうかな。

**高嶋** 留学中、日本の良さ、とりわけ技術のすばらしさを感じる機会がたくさんありました。いまは物流業界で日本と世界をつなぐ仕事をしたいって就職活動中です。

**中山** 僕はこれまでの研究を踏まえて大学では交通工学や交通システムを学んで、自動運転化に関わっていくことが夢です。

**原田** 私は食品業界に進む夢に向かってがんばりたいと思っています。

**学長** みんな大きな夢を持ってほしい。創立者は「夕」の字がふたつある「夢」の字をいつも書いていた。

**中山** 玉川っ子が大きな夢を、一つでも多くの夢を持ってほしいと願ってのことだと聞いています。

**学長** 夢があれば、こうなりたいという理想像が見える。さらにそれに向けた目標が立てられて、行動計画が考えら



特集  
学園創立  
90周年

新校舎はそのためのインフラになる。

スマートフォンのように、エンジニアリングで生み出される製品にもアートの要素が求められる時代だものね。

**高嶋** 私も機能以外の何かで選んでいくかもしれないって思います。

**学長** だからアートも工学や農学のように、ものをつくる人たちと混じり合っ

て学ぶ機会がないといけない。  
**中山** 自動運転車を含めて人間と共生するロボットには、機能に加えて仲間



自由研究は挫折の連続。  
でも仲間と協力しながら  
乗り越えていく(中山)

夢に向かって努力し  
挑戦する気概を  
持つてほしい(学長・学園長)



れる。あとは地道に実行していただく。努力しても失敗することもある。でも努力しなければ、成功しないことは確かなんだ。

**高嶋** 留学で食らいついたときのことを思い出します(笑)。

**学長** 君たちは今後、より困難なことに遭遇する。でも簡単に諦めてほしくない。壁にあたって夢に向かって地道に努力し、挑戦し続ける。挑戦して失敗すれば納得できるし、次なる挑戦も可能になる。玉川の丘でそんな気概を養い、社会で貢献できる人間になってほしい。

**一同** はい。今日はありがとうございました。